小・中学校再編にかかる地区意見交換会（下堅田会場）

１ 日時　　令和８年１０月９日（金）　１９時～２０時

２ 場所　　下堅田小学校体育館

３ 参加者　　１８人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	アンケート調査結果において、再編について「やむを得ない」（小学校 52%、中学校 48%）という回答を、賛成側の数字として含めて集計しているのはどのような理由からでしょうか。「賛成」のみで見ると、小学校では賛成 14%・反対 13%、中学校では賛成 13%・反対 13%と拮抗している状況ですが、「やむを得ない」を肯定的な意見として位置づけた理由をお聞かせください。
事務局	過去にアンケート調査を実施した際にも同様の選択肢で集計を行っており、当時も「やむを得ない」を賛成に近い肯定的な意向と判断して整理していた経緯があったため、今回も同様の手法をとらせていただきました。しかし、他の会場におきましても同様のご指摘を多数いただいており、どちらかといえば賛成なのか反対なのか、より明確な設問設定にすべきであったと反省しております。
参加者	下堅田小学校は統合時の児童数が約 80 人と見込まれていますが、80 人規模であればまだ統合せずに単独校として存続できるのではないでしょうか。小規模校ならではの良さもある中で、上堅田小学校と統合する必要性についてどのようにお考えでしょうか。また、通学バスについて、どのエリアからがバス通学の対象として想定されているのか教えてください。現在、青山方面からはスクールタクシー、中学校ではコミュニティバスを利用している実態もありますが、将来的な運転手不足なども懸念される中、運転手の確保や具体的な運行体制も見据えた計画になっているのでしょうか。
事務局	まず学校規模についてですが、下堅田小学校は近年極端な激減傾向にはなく、現在も約 130 名の児童が在籍しており、一定の規模を保っていると認識しております。しかしながら、令和 14 年度の推計では約 80 人まで減少する見込みです。今回の計画では小学校で 1 学級 20 人規模の集団形成を目指しており、小規模校同士のみを統合しても適正規模に届かない場合があること

	などから、今回の統合案のような枠組みをご提案させていただきました。 次に通学バスについてですが、学校統合において極めて重要な課題であると受け止めております。現在の市の基準では、自宅から学校まで 3㎞ 以上ある場合にバス運行の対象としております。統合先となる上堅田小学校から測りますと、下堅田校区では西野、石打、竹角、津志河内など 3㎞ を超える地域が複数点在しております。現在、青山方面からはスクールタクシーによる通学支援を行っておりますので、統合後もそれに同乗する形などを含めて検討してまいります。ただし、6 年後を見据えた運転手の確保や具体的な運行ルート・便数などの詳細につきましては、現時点ではまだ策定できておらず、今後の検討課題としております。
参加者	下堅田小学校の近隣で生活しておりますが、地域に小学校があることは地域にとって大きな希望であり、学校がなくなってしまうと非常に寂しくなると感じております。現在、下堅田校区には新しい住宅も建ち、若い世代の移住や転入も見られますが、それも小学校があるからこそ選ばれている面があるのではないでしょうか。学校がなくなった場合、地域が今後どうなっていくのか大変心配しておりますが、どのようにお考えでしょうか。
事務局	仮に再編案のとおり上堅田小学校へ通学することになった場合でも、下堅田の子どもたちが下堅田地域を大切にし、地域住民の皆様と関わりながら学ぶ機会はしっかりと存続させていきたいと考えております。広域統合が行われた蒲江翔南小・中学校におきましても、各出身地域に戻って郷土を学ぶ「里帰り学習」などを継続して実施しております。校区が広域化した場合でも、子どもたちと地域との結びつきを維持できるよう、学校と連携して工夫してまいります。また、現在導入されているコミュニティ・スクールを有効に活用し、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちを育てる仕組みを維持・強化することで、学校が遠方になったとしても地域とのつながりを保てるよう取り組んでまいります。
参加者	統合によって通学距離が 3㎞ 以上となり、新たにバスを利用する児童が増えた場合、現在青山地区から出ているスクールタクシーの出発時刻（7 時 38 分頃）がさらに早まり、子どもたちの起床時刻や生活リズムに負担がかかるのではないかと心配しております。また、鶴見や米水津なども同じ中学校へ統合される計画ですが、それぞれの方面別に運行されるのか、複数地区を巡回してくるのかなど、スクールバスの運行便数やルートについて現時点で想定されていることがあれば教えてください。

事務局	スクールバスの運行便数やルートにつきましては、現時点では確定しておりません。広域の複数地域を過度に巡回させますと、乗降に時間を要して乗車時間が長くなってしまいますので、できる限りスムーズに通学できるよう配慮いたします。そのため便数（運行台数）を増やす対応なども想定されますが、現時点では鶴見や米水津を含めた具体的な配車計画や運行ルートの詳細まではお示しできない状況です。
参加者	統合によって使われなくなる校舎や体育館などの跡地施設について、今後の利活用方法や方針はこれから検討していく段階なのでしょうか。
事務局	閉校後の校舎や体育館などの施設利活用につきましては、今後検討を進めていくことになります。ただし、現在指定避難所に指定されている体育館などにつきましては、地域の防災拠点として今後も維持していく必要があると考えておりますので、そうした施設は残す方向で検討してまいります。
参加者	体育館などの施設について、市内の社会教育活動や子どもの育成活動を行っている団体の練習場所・活動拠点としても継続して利用できるよう配慮していただければ、地域の活動が衰退することなく子どもたちも継続して頑張ることができますので、ぜひ前向きなご検討をお願いいたします。
参加者	以前、下堅田幼稚園が園児数の減少に伴い順次休園・閉園となった経験がありますが、小学校についても一斉に統合するのではなく、一定の基準を設けて徐々に段階的に進めることはできないのでしょうか。下堅田小にはまだ一定の児童数が在籍しており、徒歩登校を通じた基礎体力づくりなどの大切な側面もあります。可能な限り学校を存続させてほしいと考えます。
事務局	「一定期間入園希望者がいなければ休園する」といった客観的なルールをあらかじめ設定し、該当した学校から順次統合を進めていくというご提案ですね。教育委員会では令和 5 年度より「複式学級を解消する」という基本方針を定めておりますが、すでに下堅田小以外の多くの学校で複式学級が発生している実態があります。そのため、もし段階的な移行ルールを新たに設けるとするならば、要件を相当緩和して設定しなければ対応が難しくなる側面がございます。しかしながら、あらかじめ明確な基準ルールをお示ししておくことは、保護者や地域住民にとっても将来の見通しが立ちやすくなるという大きな利点があると考えます。いただいたご提案につきましては検討協議会にも共有し、どのような基準設定が可能か検討してまいります。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	私自身、かつて市内の小規模校で学び、一度地元を離れた後に郷土愛から再び地元へ戻って暮らしております。子どもたちが生まれ育った地域・郷土で学ぶ経験こそが、将来にわたって地域への愛着を持ち、地元に戻ってくる心を育む礎になると感じております。下堅田小に 80 名程度の児童がいるのであれば可能な限り存続させていただきたいですし、仮に統合が避けられない場合でも、まずは小規模校同士で統合するなど、段階的・柔軟な方法も考えられるのではないでしょうか。少子化が進む中だからこそ、郷土で仲間と過ごす教育的意義を大切にしていただきたいです。
参加者	学校という拠点が地域から失われた場合、子どもたちと地域とのつながりをどのように継続していくのか、具体的に想像しにくいのが実情です。学校が統合した場合、これまでのように地域住民が学校支援やボランティアとして関わり続けることは現実的に難しくなる懸念があります。また、小規模校ならではの全学年が仲良く過ごせる良さがある一方で、急激に大人数の集団へ移行した場合、環境の違いや人間関係に馴染めず戸惑う子どもも出てくるのではないでしょうか。まずは少人数の周辺地域校同士で統合するなど、段階的な再編も視野に入れていただきたいです。 事前の報道先行により「案と言いながら既に決定事項なのではないか」とい意見もあります。現在、不登校児童生徒が増加している状況も踏まえ、子どもたちが無理なく伸び伸びと学校生活を送れるよう、段階的な検討をお願いいたします。
参加者	私自身、大規模校での経験と比較しても、現在の少人数学校には少人数での良さがあると感じております。近年、若年層におけるメンタル疾病の問題が社会的に注目されていますが、少人数の環境から急に大人数の環境へ移ることで、新しい環境に適応できず精神的な負担を抱えてしまう子どもが増えるのではないかと心配しております。少人数環境に慣れた子どもたちが急激な集団規模の変化に順応できるかという不安をぜひ知っておいていただきたいです。

参加者	前回のアンケート実施時点では、多くの住民や保護者が「まさか下堅田小学校が統合対象になるとは思っていなかった」という受け止めだったのではないかと思います。今回具体的な再編案が示された段階で、改めてアンケート調査を実施していただきたいです。その際、前回のような大まかで抽象的な設問ではなく、「もし下堅田小学校が統合される場合どう考えるか」といった、現実味を持った具体的な設問で調査を行えば、「どちらでもない」といった回答は減るのではないかと思います。
参加者	前回のアンケート調査は、対象が小・中学生および未就学児の保護者に限定されていたため、子どものいない地域住民にはアンケートの実施自体が知らされておりませんでした。学校再編は地域全体の存続に関わる重大な問題ですので、保護者だけでなく、広く地域住民全体に対象を広げてアンケートを実施していただきたいです。